

三つの花（西部小学校だより） 滑川市立西部小学校 R6.10.11

学校教育目標



「三つの花」を咲かせる西部っ子

にこにこ花
ほかほか花
きらりん花

楽しく学ぶ
相手の心を思いやる
きらきらと自分らしく輝く

子供たちの姿・様子から感じたこと

9月29日の運動会では、ご家族の皆様や地域の皆様に、子供たちの全力で取り組んでいる姿を見ていただけたのではないかと思います。たくさんのご声援をいただき、本当にありがとうございました。また、テントの設営や片付けにもご協力いただきましたことあらためて感謝申し上げます。

1年生から6年生まで、子供たち一人一人がめあてをもって取り組んだ運動会でした。それぞれが「自分たちの大切な運動会」だと意識し一生懸命練習していました。

100m走では、誰一人力を抜かず最後まで真剣に走っていました。

学年競技では、練習時からチームで作戦を考えたり、自分なりの工夫をしたりして取り組んでいました。

新川古代神では、揃った大きな掛け声からはじまり、笠や扇子が美しくかっこいい踊りでした。

選手リレーでは、さすが各学年の代表と思わせるバトンリレーが見られました。

応援合戦、6年生が団をよくまとめ、大きな声でチームワークよく素晴らしい応援で、どの団も応援優勝にしたいと思いました。これまで練習してきた熱い思いを感じる最高の応援でした。また、競技中の団席の応援も一体感がありました。運動会後の解団式では、6年生から団のメンバーに感謝の言葉があり、真剣に取り組んだからこそそのうれし涙や悔し涙もたくさん見られました。

また、係活動では、事前指導後、子供たちの力を信じて任せるとそれぞれの役割を見事にやり遂げていました。

大きな感動を与えてくれた子供たちはやっぱり最高です。どの子供もこの数週間で大きく成長したと思います。

運動会の後、6年生は「運動会が終わってさみしい。」「今度は学習発表会もあるなあ。」と次の目標に向かっていくようです。「今の6年生のように来年はみんなを引っ張るリーダーになれる？」と5年生に聞いたところ、「絶対がんばる、今年のすごい6年生を超えてみせる。」と力強い言葉が返ってきました。楽しみです。

このように集中して真剣に仲間と取り組む体験は、子供たちが生きていくための大きな財産であると思います。子供たちがにこにこ、きらきらしながら、感動できる体験をたくさん味わうことができるよう教育活動を進めてまいります。

次は、心がほかほかした朝の校門での出来事を紹介します。一人の子供が「お花が落ちていました。」と、一輪のマリーゴールドの花を渡してくれました。登校途中で折れているかわいい小さな花に気付いて届けてくれたのだと思います。校門横に咲くマリーゴールドの花の中に添えると嬉しそうな顔をしたのが印象的でした。その姿を見て、ある小説の一文を思い出しました。

「…きれいな花に目が止まるのは心が豊かな証ですから、ゆっくりと見て構いませんよ・・・。」

色々なものやことがら等をきれいだなあ、かわいいなあ、すてきななあ、大切にしたいなあと感じる心を育てていきたいなあとあらためて思いました。



ある小説とは、葉室 麟(はむろ りん)さん による時代小説『螢草』(ほたるぐさ)です。武家の娘が身分を隠しながら、奉公先の主人の無実の罪を晴らすことと父の仇討ちをするお話ですが、いつの間にか巻き込まれ主人公を助けることになるたくさんの仲間も面白く、素敵で、時代小説でありながらエンターテインメント性たっぷりの話です。NHKのドラマにもなっていました。夢中になって読み進めてしまいました。

学校給食のメニュー

子供たちが楽しみにしている時間の一つに給食の時間があります。給食調理場に勤務する栄養教諭が、子供が好む味や栄養のバランス、カロリー、地場産食材や旬の食材も多く取り入れることを考えてメニューを作り、市の学校給食共同調理場で調理されています。(昨年より、各月のメニューは安心メールでも配信しています。)また、栄養教諭が学校を訪問し、成長・やる気・元気の源である食事の大切さについて指導を行っています。

ソフト麺のミートソースがけ、給食の焼きそば、給食のカレーライス等、子供の頃に好きだった給食メニューを思い出しませんか？

ご家庭でも、ぜひ、普段の食事や給食について話題にしてみてください。

「褒めること」と「認めること」の違いは？

学校では、普段から「子供たちの頑張りをたくさん褒めましょう。」と教職員で話をしています。また、子供が活躍できる場をたくさん作り、自己有用感を高められるようにしています。その際、ただ褒めるのではなく子供自身が「こだわった」「見てほしかった」点を『認めて褒める』ように心がけていますが、これがなかなか難しいのです。だから、担任だけでなく多くの教職員で子供たちの頑張りを捉えるようにしています。

では、私たちが考える子供を「褒めること」と「認めること」の違いは何か？

大人の側に見れば、「認めてあげようと思って、褒めている」「褒めることは、そのまま認めること」という感覚になることが多く、多くの子供も、そんな感じで受け止めていることでしょう。

しかし、「認めてほしい」「認めてもらいたい」と強く思っている子供の中には、「褒められてもうれしくない」といった場合があります。一体、何が違うのでしょうか。

大人が子供を「褒める」ときは、大人の基準や水準で「褒める」ことが多いように思われます。そして、大人の側の基準で一定の水準に達した、水準を超えたと評価し「褒める」ことが多いように思います。そして、水準に達しない場合には「頑張りなさい」と叱咤激励し、褒めないこともあるでしょう。

それに対して、子供が「認めてもらいたい」時というのは、子供の基準や水準で「褒められたい」ということが考えられます。子供なりのこだわりで努力したり工夫したりしたことを「認められたい」のです。だから大人の考えた基準に達していなくても「褒めてほしい」と考えたり、大人の考えた水準に到達して「褒められた」場合でも、大人の基準とは異なるような子供の基準でも「褒めてほしい」と考えたりすることがあります。

また、年齢が高くなると、自分がさほど努力もしていない、自分の功績ではないことを「みなさん、よく頑張りましたね」と全員を一括りにして褒められても、あまりうれしくなく、励みにもならないのかも知れません。子供の実際の行動と向き合うことなく、表面的にお世辞を言ったり、ちやほやしたりしても、うれしと感じていない場合もあります。

学校でも、家庭でも、子供の実際の行動にしっかりと向き合い、子供の認められたいところをたくさん褒め、子供の自己有用感を高めたいですね。

たくさんの教職員が子供たちをサポート

学校は、たくさんの教職員で子供たちを指導・支援しております。今回は、通級指導教員について紹介します。通級指導教員は、通級指導教室において学習面や生活面でやり辛さがある子供一人一人の状況に応じた指導を行います。通級指導には、決まった教科書や教材はありませんが、その子供に合った指導目標を立て、学びやすいように教材や教具を工夫しながら指導しています。

ここで紹介するのは、それぞれの業務の一部で、この他にもたくさんの業務を行っています。学校はたくさんの職員がチームで仕事をすることで動いています。